



2023年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2023年4月7日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <https://www.bs11.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 近藤 和行
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 常務執行役員 (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03(3518)1900
 四半期報告書提出予定日 2023年4月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第2四半期の連結業績(2022年9月1日~2023年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第2四半期	6,041	△0.9	1,109	△17.7	1,109	△17.7	755	△16.7
2022年8月期第2四半期	6,097	6.1	1,349	6.7	1,348	1.0	906	△0.5

(注) 包括利益 2023年8月期第2四半期 755百万円(△16.7%) 2022年8月期第2四半期 906百万円(△0.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第2四半期	42.44	42.38
2022年8月期第2四半期	50.93	50.88

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第2四半期	24,247	21,975	90.5
2022年8月期	24,241	21,569	88.9

(参考) 自己資本 2023年8月期第2四半期 21,950百万円 2022年8月期 21,544百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2023年8月期	—	0.00	—	—	—
2023年8月期(予想)	—	—	—	26.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,500	2.0	1,810	△24.4	1,810	△24.4	1,255	△21.5	70.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年8月期2Q	17,809,632株	2022年8月期	17,804,032株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2023年8月期2Q	137株	2022年8月期	137株
------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年8月期2Q	17,807,143株	2022年8月期2Q	17,803,895株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気は緩やかに持ち直しています。ただし、世界的な金融引締め等による景気の下振れリスク、物価上昇、供給面での制約等、引き続き金融資本市場の変動等の影響を十分注視する必要があります。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の増加が大いに期待されています。なお、テレビメディア広告費は、1兆8,019億円(前年比98.0%)となり、そのうち当社を含む衛星放送メディア関連の広告費は、1,251億円(前年比103.5%)となっております。(「2022年 日本の広告費」(株)電通調べ)

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え、幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として中長期的な成長を実現するため、コンテンツの価値最大化を目指しております。放送事業収入だけではなく、配信ビジネスやイベントの実施といった非放送分野の事業開発にも取り組みながら、開局15周年施策を含む効果的な広告宣伝、広報施策を実施いたしました。

[レギュラー番組]

既存番組の内容を引き続き強化するとともに、女性たちの心豊かな生き方を紹介する、『につぼん! 推し活ライフ〜トキメキ熱中女性たち〜』の第2弾を不定期レギュラー番組として放送いたしました。

また、年末年始はレギュラー番組の特別版を中心とした編成を実施いたしました。大晦日には「お父さん向けラインアップ」として、1年を「永田町」をキーワードに2時間スペシャルで振り返る『報道ライブ インサイドOUT 鈴木哲夫の永田町ショートタイム あなたの知らない政治の裏側2022』、アマチュアゴルファーから要望の多いドライバークレッシンにフォーカスした『諸見里しのぶ 実践 ゴルフテク! 大晦日2時間スペシャル 珠玉のドライバークレッシン集!』、京都を舞台に俳優の角野卓造さん、近藤芳正さんが呑み歩くグルメエンターテインメント番組『おやじ京都呑み』を続けて放送。年始には、『中山秀征の楽しく1万歩! 小京都日和2時間スペシャル! 蔵の街・栃木で絶景小道に行く』、『八代亜紀いい歌いい話 新春! 2時間スペシャル 密着! 八代亜紀 in パリ スペシャルステージ』を放送いたしました。

『ディスカバリー傑作選』では、『名車改造! ファスト&ラウド』、『ミラクル住宅リフォーム』等、様々なジャンルのコンテンツを厳選し放送。ドラマジャンルの拡充にも努め、日本初放送の中国ドラマ『麻洋街へようこそ』、BS初放送の韓国ドラマ『江南スキャンダル』、国内ドラマ『娼婦と淑女』、無料BS初放送でツイッターでもトレンド入りするなど話題となった中国時代劇『山河令』等を放送いたしました。

[特別番組]

BS11開局15周年特別番組を12月より放送いたしました。12月25日のクリスマスの夜には、社内企画募集で選出され、開局以来初となるオリジナルドラマ『恋は50を過ぎてから』を放送。大人の恋を描いた本作は放送・配信ともに多くの方にご好評をいただきました。また、年末にはMCに江口洋介さん、ゲストに織田哲郎さん、根本要さん(スターダスト☆レビュー)、春畑道哉さん(TUBE)等の豪華出演者をお迎えし、楽器を愛する人たちに音楽の魅力をお贈りする『御茶ノ水 GUITAR SPIRITS!』を放送し、更に年始には、落語・浮世絵にフォーカスした『新作落語で知る浮世絵の世界〜明治維新 メディア時代の幕開け〜』をお送りいたしました。

このほか、コラボレーション施策として、3年ぶりに開催された300年以上の歴史がある「高山祭」を中心に飛騨高山の魅力をお届けした、(株)岐阜放送との共同制作番組『飛騨高山今昔物語』、京都府北部地域の冬の魅力を職人たちを通してお届けした、(株)京都放送との共同制作番組『冬の京都2023〜伝統息づく和の源流・丹後〜』を放送いたしました。

【アニメ関連事業】

「ANIME+」枠では、製作委員会参画作品を含むアニメ関連番組を、毎クール約40タイトル放送しております。「アニメプラス」枠の「BS11ガンダムアワー」では『機動戦士ガンダム 水星の魔女』等、「キッズアニメ∞(むげんだい)」枠では英語との二か国語放送の『ラウド・ハウス シーズン1』等を放送。このほか、エンターテインメント情報番組『アニゲー☆イレブン!』、アニメソング番組『Anison Days』も引き続き充実した内容でお届けいたしました。

年末年始には、世界最大のアニソンライブイベント『アニメロサマーライブ2022 -Sparkle- powered by Anison Days』をテレビ独占・オリジナル副音声付きで一挙6時間放送、TVアニメーション『リコリス・リコイル』全話一挙放送、『劇場版うたの☆プリンスさまっ♪ マジLOVEキングダム』等、特別ラインアップで放送いたしました。

また1月には、番組連動として10月に実施し大盛況となった2.5次元俳優の植田圭輔さんと鳥越裕貴さんによるトークライブイベントの第2弾「植田鳥越 口は〇〇のもと～五臓六腑～」を主催し、女性を中心に多くの方にご好評をいただく等、アニメファンの多様なニーズにお応えできるよう、様々な切り口でアニメ関連番組の放送・イベント実施をいたしました。

このほか、読み聞かせ番組『今日のえほん』は、グループ会社の(株)理論社、(株)国土社の児童書を映像化し放送しており、当社独自の動画配信サイトであるBS11+（プラス）、BS11公式YouTubeチャンネルでの配信も行っております。

【配信コンテンツ】

当期の重点施策である「非放送分野」の拡大を目的の一つとし、自社制作番組と、その関連コンテンツの配信強化、配信オリジナルコンテンツの制作強化、オンラインイベントの開催等を行いました。

レギュラー番組関連コンテンツとしては、『中山秀征の楽しく1万歩!小京都日和』、『諸見里しのぶ 実践 ゴルフテク!』、『偉人・素顔の履歴書』及びアフタートーク『偉人・こぼれ囁』を配信しているほか、12月より『偉人・こぼれ囁プラス～加来耕三先生の歴史談義』をBS11+会員限定コンテンツとしてラインアップいたしました。『報道ライブ インサイド OUT』は、BS11+に加え、1月よりBS11公式YouTubeチャンネルでも配信を開始いたしました。また、視聴者より要望の多いドラマコンテンツを充実し、BS11+限定でノーカット版を配信しております。更に、1月には毎回ご好評をいただいているオンラインイベントの第3弾『全国の酒蔵応援!居酒屋探訪家・太田和彦さんとおうちで乾杯!～第3回 お正月 みんなで居酒屋遺産を語ろう～』を開催いたしました。

BS11配信オリジナルコンテンツとしては、神社のディープな知識や日常にいきる情報をお届けする『神さんぽ～自分に合った“神様”見つけませんか～』、視聴者の人気・興味の高いラーメンを取り上げた『珠玉の逸杯!最強ラーメン遺産 シーズン1』の配信を開始いたしました。

コラボレーション施策としては、(株)文化放送「超!A&G+」とのコラボレーション番組『ワールドダイスター RADIO☆わらじ』を配信し、BS11公式YouTubeチャンネル限定のおまけトークも配信いたしました。また、グループ会社である(株)国土社の書籍を映像化した『歌で聴く絵本「ようかいむら」シリーズ』や『アリのひみつ大図鑑』も引き続き配信する等、コンテンツの拡充に努めました。また、BS11公式YouTubeチャンネル等での広告付き見逃し配信に加え、BS11+、Paravi、FOD、U-NEXT等にて定額見放題での配信も引き続き実施しております。

【その他事業・マルチ展開施策等】

当期の重点施策である「セールスメニューの開発強化」を目的とし、様々な取り組みを行っております。

兄弟会社である(株)ソフマップが運営しているアニメコラボカフェ「STELLAMAP CAFE」及びメタバース空間「バーチャル秋葉原」への集客を目的としたCMを制作する等、クライアントニーズを捉えた的確な企画立案も実施いたしました。

今後も放送に加え、配信、その他事業を通して幅広いニーズに応えることができるよう、努めてまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は 6,041,614千円（前年同期比 0.9%減少）となりました。営業利益は 1,109,996千円（前年同期比 17.7%減少）、経常利益は 1,109,696千円（前年同期比 17.7%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 755,722千円（前年同期比 16.7%減少）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産・負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ5,832千円増加し、24,247,017千円（前連結会計年度末比0.0%増加）となりました。主な要因は、現金及び預金が434,256千円、受取手形及び売掛金が280,485千円、無形固定資産が13,240千円とそれぞれ減少したものの、棚卸資産が95,564千円、有形固定資産その他（純額）が651,638千円とそれぞれ増加したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ400,750千円減少し、2,271,178千円（前連結会計年度末比15.0%減少）となりました。主な要因は、流動負債のその他に含めて表示している未払金が166,662千円、未払費用が154,528千円、未払消費税が92,856千円とそれぞれ減少したこと等によるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ406,583千円増加し、21,975,839千円（前連結会計年度末比1.9%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が、前連結会計年度の期末配当356,077千円により減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益755,722千円の計上に伴い399,644千円増加したこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は14,022,355千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、691,806千円（前年同期は810,114千円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,109,696千円の計上及び法人税等の支払額338,187千円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、799,388千円（前年同期は25,028千円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出791,566千円、無形固定資産の取得による支出2,000千円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、326,674千円（前年同期は356,619千円の使用）となりました。これは主に、配当金の支払額355,884千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月期の連結業績予想につきましては、2022年10月7日付の「2022年8月期 決算短信」で公表しました連結業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,456,611	14,022,355
受取手形及び売掛金	2,074,459	1,793,974
棚卸資産	430,350	525,915
その他	122,567	121,894
流動資産合計	17,083,989	16,464,139
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,266,730	2,265,490
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	404,755	1,056,393
有形固定資産合計	6,706,242	7,356,641
無形固定資産	84,219	70,978
投資その他の資産	366,734	355,258
固定資産合計	7,157,195	7,782,878
資産合計	24,241,184	24,247,017
負債の部		
流動負債		
買掛金	625,550	676,342
短期借入金	500,000	530,000
未払法人税等	377,558	376,230
その他	1,045,420	562,645
流動負債合計	2,548,529	2,145,218
固定負債		
退職給付に係る負債	99,007	102,363
その他	24,392	23,597
固定負債合計	123,399	125,960
負債合計	2,671,929	2,271,178
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,936	4,186,990
資本剰余金	3,517,726	3,520,780
利益剰余金	13,843,269	14,242,913
自己株式	△143	△143
株主資本合計	21,544,789	21,950,541
新株予約権	24,466	25,297
純資産合計	21,569,255	21,975,839
負債純資産合計	24,241,184	24,247,017

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)
売上高	6,097,749	6,041,614
売上原価	2,870,120	3,098,825
売上総利益	3,227,628	2,942,789
販売費及び一般管理費	1,878,531	1,832,792
営業利益	1,349,097	1,109,996
営業外収益		
受取利息	64	71
その他	1,310	1,749
営業外収益合計	1,374	1,821
営業外費用		
支払利息	1,968	2,102
その他	27	19
営業外費用合計	1,995	2,121
経常利益	1,348,476	1,109,696
税金等調整前四半期純利益	1,348,476	1,109,696
法人税、住民税及び事業税	416,342	336,403
法人税等調整額	25,400	17,570
法人税等合計	441,743	353,974
四半期純利益	906,733	755,722
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	906,733	755,722

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)
四半期純利益	906,733	755,722
四半期包括利益	906,733	755,722
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	906,733	755,722
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,348,476	1,109,696
減価償却費	175,246	160,392
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△60,585	—
賞与引当金の増減額(△は減少)	15,000	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	5,579	3,356
受取利息及び受取配当金	△64	△71
支払利息	1,968	2,102
売上債権の増減額(△は増加)	251,797	280,485
棚卸資産の増減額(△は増加)	△88,847	△95,564
仕入債務の増減額(△は減少)	△21,786	50,791
未払金の増減額(△は減少)	△176,431	△170,057
未払費用の増減額(△は減少)	△105,633	△154,528
未払消費税等の増減額(△は減少)	△12,555	△92,856
その他	69,656	△61,720
小計	1,401,819	1,032,024
利息及び配当金の受取額	64	71
利息の支払額	△1,968	△2,102
法人税等の支払額	△589,800	△338,187
営業活動によるキャッシュ・フロー	810,114	691,806
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△19,104	△791,566
無形固定資産の取得による支出	△1,634	△2,000
保険積立金の解約による収入	392	984
その他	△4,681	△6,806
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,028	△799,388
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	30,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△682	△795
配当金の支払額	△355,937	△355,884
その他	—	5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△356,619	△326,674
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	428,466	△434,256
現金及び現金同等物の期首残高	13,021,321	14,456,611
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,449,787	14,022,355

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。

なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症に関する一定の仮定について)

当第2四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定については、前連結会計年度における有価証券報告書の(追加情報)に記載した内容から重要な変更はありません。